

第5章

教職員の声

この章は、キャリア教育を進めるに当たり、実際に教職員から出てきた声を掲載しています。

そこで、次のような順で掲載しています。

1 取組を行うに当たって

- (1) 3年間のキャリア教育を進めていく中での教職員からの疑問の声
- (2) 3年間のキャリア教育の取組を終えた後の教職員の声
(成果や課題、達成感など)

2 これからキャリア教育を取り組まれる先生方へ

- (1) 本校区の教職員からのアドバイス

第5章 教職員の声

第1節 取組を行うに当たって

(1)3年間のキャリア教育を進めていく中での教職員からの疑問の声



キャリア教育を小学校で行うのは早くないですか？

- キャリア教育というと、中学校での職場体験や面接体験などをイメージされる方が多いと思います。江田島中学校区でも最初は「小学校で何をしたらよいかわからない」という声がありました。取組が大きく進むきっかけとなったのは、「育成する力」の整理です。授業や行事を「育成する力」の視点から見直していくことで、小学校段階から「育成する力」を意識した取組を行う必要に気付かされ、日々の実践が大きく改善されました。



キャリア教育をどう考えるとよいか、わかりません。

- 本校区でも最初は、「キャリア教育＝職業教育」という思いから教師がなかなか抜け出すことができませんでした。そこで、担当者は「研究だより」を発行し、キャリア教育の考え方や取組方などを情報共有していきました。

☆キャリア教育スタート！☆

令和4年5月
No. 1

江田島中学校区によるキャリア教育が2年目を迎えました。
本校では、昨年度、道徳科の広島県大会が開催されたため、本格的な研究は、今年度からになります。
しかし、キャリア教育は大きすぎて、何から手を付ければよいか分からないのが現状でしょう。
そこで、今年度のスローガンを考えました。

ストーリーのある学びを創る！

キャリア教育は、新しく何かをする必要はありません。
これまで数多くの研究と実践を積み重ねているため、この今あるお宝を、キャリア教育の視点でカリキュラム・マネジメントをし、学びのつながりを意識すればよいのです。
道徳科をはじめ各教科や領域、学校行事など、さまざまな方面で取り組んでいたことが一本化されるため、付けたい資質・能力も明確になり、子供たちの学びもスッキリすることでしょう。
そこで、付けたい資質・能力を明確にして、学校教育活動をつなぎ、学びを連続化させて、子供たちの記憶に残るような、ストーリーのある学びを創っていきましょう。

【切小キャリア教育改善プロジェクトの内容】

①カリキュラム・マネジメント … 年間計画の作成を通して系統性を図る。
*事前・事後とのつながりを考え、体系的・系統的に学ばせる。
*地域や社会、教科、教育活動をつなぐ。

②切小スタイルの作成
「導入」—魅力ある教材か？ 教材との出会わせ方の工夫
学習計画の時間設定を行い、子供と共有する。また掲示する。
(目的・学習内容・学習方法・学習の順序・生活や母系との関連付け)
「展開」—繰り返し開わり、比較・関係付け・類推をしたり、情報収集・整理・分析をしたりできるように工夫する。
「終末」—目的意識や相手意識をもった発信ができるように工夫する。
視点に沿った振り返りを充実させる。

切串小学校
研究だより
より



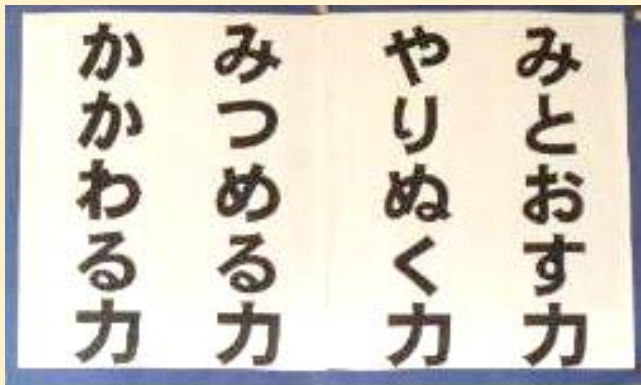
「育成する力」が決まった後は、何をすればよいですか。

- 中学校区で育成する力とその具体を作成した後は、キャリア教育の取組や育成する力について、児童生徒と共有化を図りました。

江田島中学校区では、

- ・ 育成する力を児童生徒に馴染みのある言葉にし、共有する。
- ・ 育成する力を見取ったときに、日々言葉掛けをする。
- ・ 行事等での目標設定は、育成する力に基づいて行い、児童生徒と共有する。
- ・ 校内掲示を利用し、育成する力を可視化して意識できるようにする。

などに取り組みました。



切串小学校 教室掲示



特別支援教育においては、どのようにキャリア教育に取り組むとよいですか。

(江田島中学校区特別支援学級担任の話)

- 特別支援教育の視点とキャリア教育における育成する力には、共通点が多くあります。例えば、キャリア教育における「人間関係形成能力・社会形成能力」は、特別支援教育における「人間関係の形成」と深く関わります。

日々の学習内容を「生活や社会とつなげる」「見通したり、振り返ったりする活動を意識的に取り組む」というキャリア教育の視点で改善することは、特別支援教育の学びを深めていくことにもつながりました。「特別支援学級だから難しい！」ではなく、「特別支援学級だからこそ！」の意識で、全校でキャリア教育に取り組んでほしいです。



特別活動を学校におけるキャリア教育の要とする
とは、どういうことですか？

- キャリア教育の充実を図るためには、全ての教育活動を通して実践することが大切です。子供たちは、各教科等で、キャリア教育で育成する力に関わる数々の気づきをしています。それらの学びを、学級活動・ホームルーム活動で、キャリア・パスポートやポートフォリオなどを活用し、学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うが求められています。これは、現行の学習指導要領解説「特別活動編」学級活動・ホームルーム活動（3）「一人一人のキャリア形成と自己実現」として、新たに設けられたり整理されたりしました。全ての教育活動を通じたキャリア教育の実践がないと、振り返ることができないため、特別活動を要として、学びをつないでいきます。



学級活動・ホームルーム活動（3）

教科や学校行事を通して、
「計画を立て、自分で行動する力」が身に付いたよ！



キャリア教育について、家庭や地域から理解や協力を得るには、どうしたらよいですか？

- PTA総会や学校行事等で育成する力や児童生徒の実態を伝える。
- 学校通信・学級通信を活用する。
- 懇談会で説明をする。
- 「めざす自分シート」やポートフォリオを保護者とも共有する。
(個人懇談で、頑張ったことを保護者に伝えて、コメントをもらう。等)
- コミュニティー・スクールの仕組みを活用する。
- 出前授業に講師として参加をしてもらう。
などが考えられます。

(2)3年間のキャリア教育の取組を終えた後の教職員の声



キャリア教育を推進して、どんな手応えを感じましたか。

- 手探りながら少しずつ取組を進めていく中で、「子供たちにどんな力を身に付けさせたいか。」を校区の教職員で本気で考えたことが、取組が大きく進む第一歩となりました。今までやってきた学校行事・授業・職場体験活動を育成したい力の視点で見直していくことが、キャリア教育を進める第一歩となりました。
今までなんとなく「例年通り」「今まで通り」とやってきたことを「この行事で子供たちに育成したい力は何だろう。」「そのための活動になっているだろうか。」「この単元の授業は、このやり方でよいだろうか。」と、子供たちに育成したい力を基に、改めて見直しをしていきました。
その結果、子供たちが進んで学習に取り組んだり、自分たちで行事を計画し試行錯誤したりと、取り組む以前よりも主体的に行動する姿が見られるようになりました。「キャリア教育をやってみると、子供たちが変わってきた」のが、はっきりと目に見えたので、取り組んで楽しかったし、取り組んでよかったと感じているところです。



3年間の取組を終えた感想を聞かせてください。

- 教師からの誉め言葉が増え、児童生徒との関係もよくなり、教師の見取る力も高まったと感じています。「すごいね。」「上手だね。」だけの誉め言葉から、キャリア教育で育成する四つの力の視点で具体的に褒める言葉により、学校現場の雰囲気明るくなり、教師の児童生徒との関わり方を見て、子供同士の関わり方も＋（プラス）方向に働いていると感じています。キャリア教育の視点が相乗効果をもたらしていると感じ、キャリア教育の重要性を実感しているところです。
- キャリア教育の視点で授業改善や教育活動を改善することにより、学校教育現場において、児童生徒の主体的な姿や「学校が楽しい！」と活気ある姿が見られるようになりました。キャリア教育の視点で教育活動を見直すことで、児童生徒が「自分たちが学習や行事を創る」意識をもち始めているからだと感じています。今後も、キャリア教育の視点で授業改善や教育活動を PDCA サイクルで見直し、私たち教職員も学校改革に携わっていきたいです。

第2節 これからキャリア教育を取り組まれる先生方へ

(1) 本校区の教職員からのアドバイス



これから取り組んでいく上でのアドバイスをください。

- キャリア教育ときくと、「何か特別なことをしなければならないのではないか。」と身構えると思いますが、そんなことはありません。しかし、推進地域として取り組んで感じたことは「キャリア教育の視点で見直したからこそ、よりよいものになったことがたくさんある。」ということです。

先生たちが変われば、子供も変わります。先生と子供が変われば、学校が変わります。これまでのお宝として残る取組を、キャリア教育の視点で見直して学びをつなぎ、より記憶に残る宝として残していきましょう。

私たちと一緒に、学校で、「ストーリーのある学び」を創りませんか？